

事務事業マネジメントシート(平成27年度実績と平成28年度計画)

平成28年 9月30日更新

事務事業名	認知症高齢者家族やすらぎ事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連		
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	健康福祉部	課長名	米澤伸仁
	施策	16	高齢者の自立と社会参加の促進			所属課	高齢者支援課	担当者名	樋口良平
施策の柱	50	高齢者支援体制の充実			所属班	包括支援センター班	(内線)	2143	
予算科目	会計	款	項	目	事業連番	根拠法令	介護保険法志市認知症高齢者家族やすらぎ支援事業実施要綱		
	介護	11	3	5	10484 他		成果優先度評価結果	;	
終了、開始年度	<input checked="" type="checkbox"/> 27年度で終了 <input type="checkbox"/> 27年度から開始					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	日常生活自立度判定基準ランクⅠからⅡbまでか、これに準ずる認知症高齢者を介護している家族への支援を図り、家族の身体的、精神的な負担を軽減し、在宅生活の継続及び向上を図る。認知症高齢者を介護している家族の留守中又は、介護疲れで休憩が必要な時間帯に訪問し、見守り・話し相手をする。平成12年度に地域ささえあい事業として介護負担軽減を目的に県の推薦を受け、県下振興局単位でモデル地域として開始された。利用家族数は開始当初は増加していたが、現在は2家族が利用。全国的に介護疲れによる事件の報道が目立つようになってきており、介護虐待を含めて介護負担軽減のための事業は重要視されてきている。認知症に対する地域の理解はあまり進んでいない、結果この事業の普及が家族やその周辺の理解へとつながっている。
【業務の流れ】	認知症高齢者家族やすらぎ支援事業申請書の提出後に訪問調査し、ケア会議で審査のうえ決定する。事業は社会福祉協議会に委託。
【主な予算費目】	委託料。
【意見や要望】	家族は一定の時間自らの時間を確保でき、安らぐ時間が持てる感謝されている。ただ、対象者が認知症の軽度の方となっており、実際必要性が高いのは対象外の重度の認知症の方であることから、必要な方々が利用しやすいように検討していくことも必要と思われる。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分:
① 手段(主な活動) 27年度実績(27年度に行った主な活動) (DO)	介護者の代わりに見守り、話し相手をする事業に対する委託料(社会福祉協議会に委託)。平成21・22年度は利用者なし。	28年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 人	予算の主な増減の理由
→ ア 見守り、話し相手を利用した人数		事業統合による減
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	認知症高齢者を介護している家族で、やすらぎ支援員の派遣が必要な世帯。	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
		(単位) 人
		→ ア 認知症高齢者を介護している家族数で相談のあった人数
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	身体的、精神的、経済的負担の軽減が図られる。	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
		(単位) 人
		→ ア 身体的、精神的、経済的に助かった人数
*③成果指標設定の理由と28年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
意図が、身体的、精神的、経済的負担の軽減が図られることであるため、身体的・精神的・経済的に助かった人数とした。		全体計画
		~ 年度
		0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	25年度実績(決算)	26年度実績(決算)	27年度目標(当初予算)	27年度実績(決算)	27年度目標(当初予算)	予定	見込	見込
① 活動指標	ア 人		3	2	8	1				
	イ									
② 対象指標	ア 人		3	2	8	1				
	イ									
③ 成果指標	ア 人		3	2	8	1				
	イ									
投資入費量	財源内訳	国庫支出金	千円			366	30			
		都道府県支出金	千円			182	16			
		地方債	千円							
		その他	千円			206	61			
		繰入金	千円			182				
	一般財源	(A) 事業費計	千円	0	0	936	123			
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0			
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0			
		正規職員従事人数	人	4	0	5	1			
		延べ業務時間	時間	120	0	160	30			
(B) 人件費計	千円	478	0	637	111					
トータルコスト(A)+(B)	千円	478	0	1,573	234					

事務事業名	認知症高齢者家族やすらぎ事業	所属部	健康福祉部	所属課	高齢者支援課
-------	----------------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部 (CHECK)

*原則は27年度の事後評価、ただし複数年度事業は27年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①27年度目標達成度評価	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】
	②28年度目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 本事業の趣旨を広く周知し、介護疲れや、自分の時間を持ちたい家族により多く利用していただくことで目標達成は見込める。
有効性評価	③成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 認知症高齢者を介護している家族の介護の軽減を図るためにも、事業内容を要綱改正も含めて、委託事業者と検討していくことで、より効果的な支援が可能になることも考えられる。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 認知症高齢者の話し相手は専門性が高く、専門の有資格者による事業実施が必須である。また、本人に対するヘルパーサービスとは違い、介護者の介護疲れの軽減、介護者の時間確保のための事業であり、身体介護を伴わないものでもあるため、他に類似事業は無い。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 最低限の事業費で行っているため。
	⑥人件費 (延べ業務時間) の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 専門性の高い業務であり、介護支援の専門の事業所 (社会福祉協議会) に委託して行っているため、削減の余地は無い。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 申請があった場合、サービス判定会議に諮り、本事業の利用者として適当かどうか、その他利用回数等を判定しているため。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 認知症高齢者を介護する家族を支援することは、地域支援事業として市が積極的に行うべきであり適正である。

3 評価結果の総括 (CHECK)

相談ケースは認知症だけでなく、身体介護等が必要な高齢者がほとんど。そのため、介護保険サービスでの訪問介護での対応となることが多いため、やすらぎ支援事業への利用に繋がっていない。要綱の改正し、より効率的な支援方法について検討を行ないたい。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

<p>(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案) ・ ・ ・ 複数選択可</p> <p><input type="checkbox"/>廃止 <input type="checkbox"/>休止 <input type="checkbox"/>目的再設定 <input type="checkbox"/>事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (有効性改善)</p> <p><input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (効率性改善) <input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (公平性改善)</p> <p><input type="checkbox"/>現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)</p>	<p>(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持																					
	低下																					
<p>(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策</p>																						